

香港ブックフェア ジャパン・パビリオン 大人気を博す！

香港貿易発展局 東京事務所長 伊東 正裕

7月17～23日、夏休みの恒例行事として知られ、今年で34回目を数える「香港ブックフェア」と同時開催イベント「スポーツ&レジャー・エキスポ」、「ワールド・オブ・スナック」は、7日間の開催期間中、99万人の一般来場者を集め、盛会のうちに幕を閉じました。その中でも、特に来場者からの注目を集めたのは、日本各地からの出展者で構成されたジャパン・パビリオンです。

遡ること10年前、書籍・漫画・作家を題材に日本文化の対外発信と日本への観光誘致を狙いとしたジャパン・パビリオンは、日本を愛してやまない香港人からの注目を集めました。今年のジャパン・パビリオンには、北は北海道から南は沖縄県まで26地域の自治体及び観光推進機構に加え、在香港日本国総領事館、日本政府観光局（JNTO）、2025年日本国際博覧会協会、JTB香港、東急ホテルズ&リゾーツ、西武鉄道、WAmazing（順不同・略称）が出展、全18ブース321㎡となりました。今年も、昨年同様、くまモン（熊本県）、名探偵コナンとゲゲゲの鬼太郎（鳥取県）に加えミヤクミヤク（大阪・関西万博）、トゥレポん（ウポポイ）など多くのマスコットがパビリオンに集結、夜遅くまで大勢の来場者で賑わいました。

7月18日には、当協会の会員でもあるアグネス・チャンさんのトーク・ショーが開催されました。新たに出版された『成長のマイルストーン～1歳から3歳までの子育て48のガイドライン』を紹介、子どもは生まれてから最初の1000日が一番大切で、常に新しい刺激で脳を発達させ続けることの重要性について強調しました。

7月21日には、内閣府の自見はなこ特命担当大臣がジャパン・パビリオンに来場され、万博、北海道、九州、沖縄をはじめ各ブースを訪問、日本各地へのインバウンド観光のプロモーション活動を行い、「今後とも、日本と香港間の経済関係や人と人との交流が一層発展することを期待する」と述べました。

今年度のフェア調査によりますと、1人当たりの消費額は前年比4.6%増の912香港ドルを記録、これは香港人の書籍に対する年間消費額の74%に相当します。同時開催の関連イベントも好評で、ブックフェアとの相乗効果を生み出し、来場者からの満足度が高いイベントとなりました。



ジャパンパビリオンJNTOブースにて（左から4人目が自見大臣、左から2人目が岡田大使・総領事、右から2人目が筆者）

2024年9月発行（禁無断転載）

目次

香港ブックフェア ジャパン・パビリオン 大人気を博す！	1
香港とともに変わり続けるハーバーのネオンサイン	2
各界で活躍する香港日本人学校OB・OG 第5回	4
私と香港ビジネス	6
連合会・各協会便り	
全 国：アジアフォーラム2024 於：ベトナム、ホーチミンシティ	7
東 京：ドラゴンボートレース参戦記／第5回ビジネス座談会	8
関 西：文化部セミナー「昼食懇親会」開催／法人会員交流会開催／香港ビジネスセミナー～今とこれからの飛龍・香港の商機を考える～開催	9
中 部：2024年春 中部日本香港協会が発足いたしました 高橋治朗元会長を偲んで（2023年10月25日逝去）	10

九 州：香港大学生の日本・九州インターンシップ&文化プログラムの成果報告	11
山 形：山形県産米を使用したおにぎりの販売スタート	12
北海道：北海道を代表する食品を海外バイヤーにPR	13
宮 城：アジアフォーラムに参加して 仙台～香港13年ぶりにチャーター便運航	14
沖 縄：香港フィルマート	15
広 島：広島日本香港協会令和6年度通常総会／交流会	16
新 潟：通常総会・講演会・懇親会の開催 アジアフォーラム in ベトナム2024への参加	17
高 知：香港食品セミナー開催	18

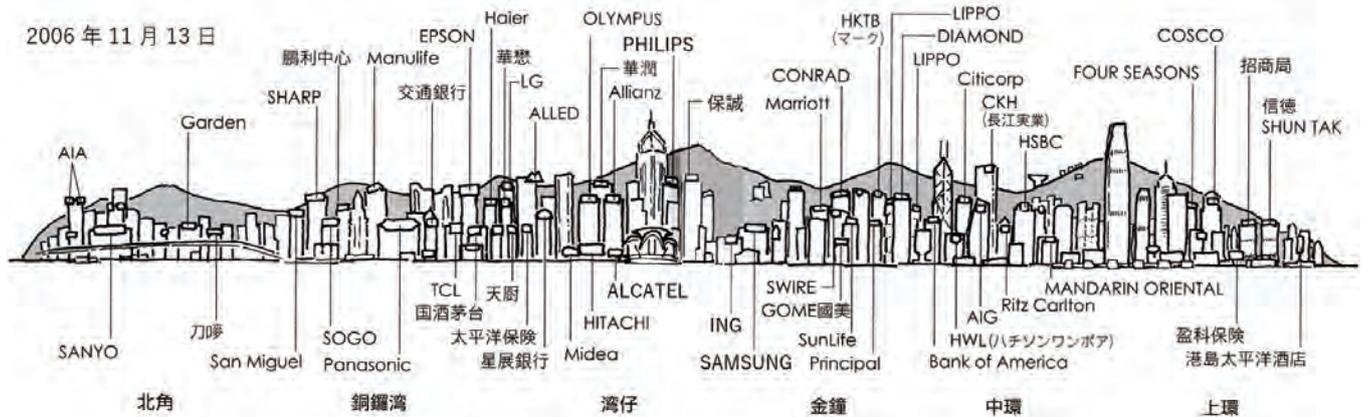
香港とともに変わり続けるハーバーのネオンサイン

NPO法人日本香港協会（東京）広報委員長 小柳 淳

1983年の初上陸以来、幾度も香港旅行をしています。回数を重ねていると早々に見どころと言われる観光スポットは見尽くしてしまいました。でも、旅はガイドブックに載っているところを見てしまった後が楽しくなるのです。何でも無い街角に立ち、小さな通りを歩き、降り落ちてくるかのような頭上の高層ビルに呆れ、海辺で寛ぐ。そうして香港を歩いていて、維多利亞港（ビクトリアハーバー）の夜景は見飽きることのない景色です。100万ドルの夜景と言われる人工の絶景を何回も見てきたのですが、あるとき初めてネオンサイン広告をひとつ

ひとつ手許の旅ノートにメモしたのです。返還（1997年）のころのことです。赤や黄色、青、緑を主体として文字中心のネオン管が煌めいていました。

そのとき以来、香港に旅した夜は尖沙咀のウォーターフロントに行ってネオン観察をするようになりました。スタートはたいいスターフェリー乗り場。交通の便がよいからです。ハーバー越しに輝くネオンを見ながら東西に移動し、右に望む西端の西營盤から左に広がる北角、太古城あたりまで眺めます。賑やかなのは何といっても中央正面の中環から湾仔、銅鑼灣エリアです。ハーバー



の波の具合にもよりますが、赤青緑黄色の光が群青の海面に美しく反映してゴージャスな光景が現れることも多いのです。そしてノートを開いて記録をはじめます。何回か続けているうちに、前回の記録をコピーして、そこに変化を書き込むようにすると作業がガンと楽になりました。

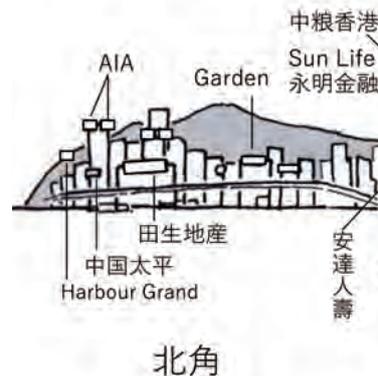
◆日本企業が多数派だったネオン

最初のころのメモを見るとネオンサインの広告は日本企業が多数を占めていました。SANYO、Panasonic、HITACHI、OLYMPUS、ONWARD、TDK、佐川急便、mita、CANON、SHARP、TOSHIBA などなどです。日本企業以外ではPHILIPS（オランダ）、Manulife（カナダ）、NOKIA（フィンランド）、Ford（アメリカ）、SIEMENS（ドイツ）、Compaq（アメリカ）、KAL（韓国）などが見え、アメリカよりヨーロッパ勢が多めでした。

San Miguelは香港企業とカウントして良いのかもしれませんが。これに、広告というよりビルの表示のネオンで、Bank of America、LIPPO、Marriott、SOGO、Citicorpが見えました。

その後何回も尖沙咀の海辺から観察を重ねましたが、同じ広告主のネオンサインでも場所やサイズが変化することもありました。大きくなったり高い位置に変化することを「出世」などと表現する人もいたようです。ただ私の記録は旅先の観察なので、実際にはあるのですが、観察の日にはたまたま消灯していた

2019年12月8日



かつて香港日本人学校に通ったOB・OGで、現在第一線で活躍する人たちに香港の思い出と今のお仕事を聞きました。

ゲスト：有馬 ゆみこさん

(シンガーソングライター、ナレーター)

聞き手：平野 純一 (NPO法人日本香港協会広報委員)

伊東 正裕 (NPO法人日本香港協会広報委員)

◆香港では毎日泳いでいました

——香港に住んだのはいつごろですか。

有馬 1976～79年の小学1年から4年です。香港に着いたら翌日が小学校の入学式で、私の学校人生は香港でスタートです。グレー基調の白ブラウスに赤いリボンの制服がかわいかったですが、作る時間がなく私服で参加したことを覚えています。



有馬ゆみこさん

——家はどちらでしたでしょうか。

有馬 香港島のハッピーバレー東部、山の中腹にあるジャーディンズ・ルックアウト (渣甸山) です。マンション1階にプールがあり、そこで1年中泳いでいました。香港でも冬は寒い日がありますが、くちびるが紫色になっても泳ぐほど水泳が好きでした。

ある日の朝礼では貧血を起こして保健室に行ったのですが、午後に回復するやいなや当たり前のように水泳大会に参加し、学年で1位になって周りから呆れられました。日ごろから自宅マンションのプールで鍛えていた成果ですね。クラスで日焼けを競う大会でも5位になりました。

——普段の生活はいかがでしたか。

有馬 香港に行って驚いたのが、家に住み込みのアマさん (お手伝いさん) がいたことです。幼い私にとっては、家族ではない人が常時家にいるということが衝撃的でした。50代くらいの女性で私たちは「アムー」と呼んでました。母が言うにはとても本格的なプロのアマさんだったそうで、日本のインスタントの焼きそばも手間をかけて本格的な広東風に仕上げてくださいました。アムーがマンションの下で買ってきてくれる「水豆腐」 (杏仁豆腐のようなお菓子) も好きでした。



両親と中国料理店で

——家族でよく行っていたところは？

有馬 やはり本場の中国料理店でしょうか。北京料理、上海料理、広東料理、四川料理など、さまざまなお店に車でよく行っていました。子どもなのに生意気にも“北京ダックデビュー”です。あと楽しかったのはファンリン (粉嶺) です。両親はロイヤル香港ゴルフクラブでゴルフをして、その間、子どもたちはプールで遊んでいました。ここでも水泳ですね。父の会社の駐在員の方たちと週末に船に乗って離島に遊びに行ったのもよい思い出です。リクリエーションでスイカ割りなどをしました。

——香港にいたころから、やはり音楽は好きだったのでしょうか。

有馬 当時テレビで「小時候 (子供時代)」というホームドラマがあり、その広東語のテーマソングがお気に入り、覚えてずっと口ずさんでいました。

——香港から帰国後は？

有馬 小学4年で日本に帰った後、中学1年から高校3年まで今度はアメリカ・ロサンゼルス南東のアーバインに住みました。そこでは現地校に通い、土曜日だけ日本語の補習校に通っていました。

最初の数年は英語も話せなかったこともあり、放課後はミュージックビデオと映画チャンネルが友だちでした。また、当時はインターネットもなく、日本の情報は乏しくて、日系の書店に遅れて届くマンガの「りぼん」や「なかよし」を読むのが楽しみでした。漫画家に憧れるようになり、マンガ投稿コーナーに作品を送ったりしていました。

その後歌手志望が変わった理由は7歳上の兄の影響も大きいと思います。兄は当時大学生で日本にいて、日本の歌手が出演する歌番組をVHSテー



7歳上の兄と自宅近くで



有馬ゆみこさん(シンガーソングライター、ナレーター)

ブに録画して送ってくれていました。そのビデオを繰り返し観ているうちに、「日本に帰ったら歌手になりたい」と思うようになりました。

カリフォルニアでは16歳でクルマの免許が取れるので、日本人の友だちが運転して補習校に連れて行ってくれたりしました。カーステレオに合わせて私が歌うと、「ユーミン(当時のあだ名)歌うまいね」と友だちが言うので、私もその気になって……。

◆「ゆめいっぱい」で念願の歌手デビュー

——それで日本に帰ってから具体的な行動に出たわけですね。

有馬 高校3年で帰国したのと同時に、オーディション雑誌を読んで、デモテープを音楽制作会社に送り始めました。「ビーイング」という会社に送ったら、本当に偶然ですが、私の母方の従兄弟の織田哲郎さんが在籍する会社だったんです。

——まったくの偶然だったのですね。

有馬 そうなんです。織田さんから家に電話が掛かってきて、母に「有美子ちゃん、オーディション受けた？」と言うので驚いていると、「合格者の履歴書があがってきたら有美子ちゃんの名前があって、あれ？これ僕の従姉妹だよって(笑)」というのです。受けたことは誰にも話していなかったのに、こちらもビックリしました。

合格した後、ボイストレーニングを受けるなか「ちびまる子ちゃん」がアニメ化されることになり、偶然にも織田さんが作曲を手掛けた主題歌「ゆめいっぱい」を歌う候補に選ばれて、90年1月にデビューが叶いました。芸名は「関ゆみ子」で、当時はまだ学習院大学の2年生でした。

「ゆめいっぱい」のあと、作詞作曲を手掛けるなか、まだまだ人生経験や表現力不足を感じて、25歳で一度音楽活動を辞め、アルバイトをしながらナレーションや舞台の勉強をはじめました。すると自然に音楽好きな人ばかりが集まり、気付くと曲を作ったりアレンジしたりコーラスをつけたり、音楽あふれる舞台活動をしていました。その後、師匠である演出家先生に相談して現在の「有馬ゆみこ」に改名しました。

——最近また「ゆめいっぱい」を録音したと聞きました。

有馬 はい。2020年4月に、楽天の「母の日」のCMで「ゆめいっぱい」が起用されることになり、映像ディレクターが「90年代に聴いていた人が、今大人になって『懐かしい』って思うはず。29年ぶりですが歌いませんか」と言ってくれて、再録することになりました。

CMは、停めたクルマの中でカーラジオに合わせて母と娘が「ゆめいっぱい」を熱唱するというものです。SNSでは「また歌ってくれてありがとう」と思いがけない反応をもらいました。

◆家族総出のコンサートも

——ライブ活動も活発に行われています。

有馬 新型コロナが収束した23年からライブを再開しています。ライブのなかで「飛行機メドレー」というアトラクションコーナーを作り、これがお客さまに大変好評です。

昔、日本と香港を往復するときに乗ったシンガポール航空のCAさんが着ている制服がかっこよくて憧れだったんですね。そこから発想を受けて「アリマー航空」という架空の航空会社を作り、シンガポール航空の制服(民族衣装)を着て、世界中を音楽で旅するのです。

例えば、ニューヨークに行くとジャズ、ブラジルではサンバなど訪れた国の音楽を演奏するほか、その地のトリビアなどを盛り込んだりして、なんとか無事に日本に帰ってくる……みたいな感じです。先日のライブではドイツの民謡ポルカに合わせてCA姿の私が、機内と同じようにお客さまにミックスマツを配りました。香港時代に抱いていた憧れを形にできたようで、私も音楽の旅を楽しんでいます。

——ご家族も出演してコンサートをやられたとか。

有馬 はい。実は母が70代にしてアルゼンチンタンゴの歌に目覚めたことで、それならばと一緒に「母娘コンサート」を2011~14年に3回やりました。その時から自分の中で「旅情」がテーマになり、シンガポール航空の民族衣装の制服もその時から着ていました。兄も参加して機長の役をアナウンスでもってもらいました。父はチケットやチラシを作ったりしてくれて、家族総出のイベントですね。よい思い出です。

——帰国後に香港には行っていますか。

有馬 それが一度もないんです。あのころとはずいぶん変わっているでしょうが、大人になった今の目線で香港をぜひ訪れて、「飛行機メドレー」で香港をどう紹介するかが今の最大の楽しみです。

——それは楽しそうですね。本日は大変ありがとうございました。



左から伊東、有馬ゆみこさん、平野

〈有馬ゆみこさん略歴〉

カナダ生まれ。商社に勤める父親の仕事の関係で香港、米国にも住み、1990年、学習院大学文学部英米文学科の2年生時にアニメ「ちびまる子ちゃん」の初代オープニングテーマ「ゆめいっぱい」で歌手デビュー。現在、TVナレーターも務める。

私と香港ビジネス

NPO 法人日本香港協会（東京）理事 山本 倫寛

私は1977年に総合商社に入社後、42年間にわたり一貫してプラスチック畑を歩んだ。その間、1983年に29歳で香港に駐在したのを皮切りに、マレーシア、上海、イギリス、ドイツ、そして再度の香港および広東省と合計17年間の海外駐在を経験した。この17年のうち、家族と一緒に暮らしたのは最初の香港駐在3年半のみで、それ以外は全て単身赴任であった。



香港には1983年から1988年の5年間および2001年から2006年の5年間、合計10年の駐在であった。つまり、香港返還前と後の両方を経験したことになる。そして上海駐在は1994年からの4年間であったが、上海が急激な発展を遂げた時期で、非常にエキサイティングなビジネス環境の真っ只中、私は5つのプラスチック関連工場の設立に携わった。ところで、この駐在期間を通じて感じた香港・広東省と上海・華東地区の製造業分野における違いはイメージ的に下記の通りである。

- 香港・広東省：池に浮かぶ無数の浮草の集まり
(小規模・中小企業の集積)
- 上海・華東地区：大地に根をおろした大木の集まり
(大企業の集積)

このような違いを踏まえ、顧客との接し方にも色々工夫をした記憶がある。

さて、1回目の香港駐在は総合商社の現地法人という大きな組織の一員としての活動であった。

当時はプラスチック製品関連事業者も香港内に工場を持って生産を行っていた。例えば観塘（クントン）や香港仔（アバディーン）にも沢山の工場ビルが乱立していた。当時の私の業務はプラスチック原料、関連機械設備、製品などの営業プレーイングマネジャーで、赴任してすぐは、まずは香港のプラスチック業界の把握に努めるため、何十階建て工場ビルの最上階までエレベーターで昇り、降りる際は階段を使い、各階でプラスチックの匂い、プラスチック関連機械の音を頼りに飛び込み営業という泥臭い努力をしたことが懐かしい。

赴任当初は戸惑う場面にも色々遭遇した。日本からの取引先が香港に出張される際、会食接



四川省における大型機械設備販売契約締結式

待というのが通常であった。さる部長のために高級広東料理店を予約し、ご案内したところ、「僕はこのような綺麗な高級料理店は好きではない、汚くても地場の美味しい店を期待していたんだよ」とご立腹。それ以降、家族が赴任する前、半年間は平日の夜・土曜・日曜を含め、時間が許す限り中華料理店（広東、上海、四川、北京、客家、潮州料理など）を回り、一人食事で各店の美味しいもの情報収集に努めた。これらをノートにまとめた膨大なメニュー集は、その後の会食接待に大いに役立った。

2回目の香港駐在は私が2001年に転籍した総合商社のグループ会社であるプラスチック専門商社で、当時この会社は日本国内市場のみを対象としていたが、社長が海外展開を目論んでおり、海外経験のある私に白羽の矢が立った。社長の意向は、短時間かつ安く香港に現地法人を設立して欲しいとのことであった。私は日本で取引関係のあるプラスチック商社が持っている香港法人の株を50%買ってはどうかとのM&A提案をした。この提案が受け入れられ、買収契約・現地手続きおよび買収後の現地法人の経営トップとしての赴任の指令が出た。私は赴任期間として1年間とすることを条件に拝命し、完遂の上、香港に赴任した。

経営を予定通り1年間で軌道に乗せ、帰国しようとしていた矢先、SARSが発生した。本社は山本が戻ると



日本人倶楽部チームでのアバディーン地方予選会
日本が危ない（ピンクユニフォーム後ろから3人目）

との理由で帰国を認めず、結局これを受け入れ通常の経営に努めていたところ、今度は100%出資のプラスチック商社をもう1社設立・経営して欲しいとの指令が出た。結局これも完遂し、居座り駐在として5年間を過ごした次第である。

日本に帰国後は本社の経営企画部長としての業務をこなしながら、中小企業診断士の資格取得の勉強を始めた。理由は香港駐在当時、数多くの現地系あるいは日系中小企業の経営者の方々に大変お世話になり、その恩返しをしたかったからである。現在は国際派中小企業診断士として活動している。

私が東京都中小企業診断士協会の国際部長を務めていた当時、2019年11月に海外研修事業として「大湾区」視察を企画した。香港での騒動がピークに達していた時点で惨状を目の当たりにし、非常に悲しい思いをした。国安法の施行など変化は生じていると思うが、香港を第2の故郷としている自分としては、「香港よ 不死鳥（フェニックス）であれ！！」との言葉で締め括りたい。

アジアフォーラム2024 於：ベトナム、ホーチミンシティ

香港ビジネス協会世界連盟、香港貿易発展局主催の2024年アジアフォーラムが6月26～28日にベトナム、ホーチミン市で開催されました。メイン会場は香港系のニューワールドサイゴンホテルでした。参加者は、開催国ベトナムを筆頭にマレーシア、シンガポール、タイ、ミャンマー、カンボジア、インドネシア、台湾、フィリピン、日本の各国からの代表で、日本香港協会からは連合会の佐藤会長をリーダーとして東京、関西、宮城、新潟の各地協会から総勢9名が参加しました。

今年のアジアフォーラムにおける日本香港協会としての最大の目的は、次回2025年のアジアフォーラムの開催地として新潟が立候補し、幹部及び各国主要メンバーの理解を得る事でした。



アジアフォーラム（ホーチミン）日本からの参加者

◆レセプションとウェルカムディナー

ディナーに先立ち、会場である Vinpearl Landmark 81 の69階のスカイテラスでネットワーキングレセプションが催されました。会場には主催者である香港ビジネス協会ベトナム、香港貿易発展局ベトナム、各国協会の主要メンバーに加え、地元関係者の方々が訪れ、身動きが取れないほど盛況でした。参加者の中にはフォーラムの冠スポンサーである中国銀行（Bank of China）などの企業に加え、在ベトナムホーチミン市中国総領事の姿もありました。日本香港協会の佐藤会長並びに新潟香港協会の吉田会長を筆頭に、日本香港協会からの参加者9名は会場に早々に到着し、両会長からビジネス協会幹部の方々に対して次回アジアフォーラムの新潟開催への誘致を積極的に働きかけました。

その後のディナーではエンターテインメントとして地元ホーチミン市の子供たちによるラインダンスが披露され、その後は引き続き各参加者間でのネットワーキングが熱心に行われていました。

◆ランチミーティング

セミナー形式のランチのテーマは「未来に適応したビ

ジネスのためのデジタルとESGのイノベーションの活用」というものでした。ESG Mattersのアンディ・チョン氏がモデレーターとなり、壇上の参加者がパネルディスカッション形式で意見を述べながら進行しました。キャセイパシフィック航空からのスピーカーも香港からオンライン参加、モデレーターから「航空会社がビジネスと脱炭素（CO₂の削減）という相対する課題に対してどのように取り組むのか？」との問いに対しては、「近距離の移動手段としては鉄道をお勧めします」との回答でした。

◆香港ビジネス協会ベトナム主催のミーティング

香港ビジネス協会ベトナム（HKBV）会長のマイケル・チュー氏の歓迎挨拶で会議が始まり、香港貿易発展局からの活動報告の後、各国協会からの報告が行われました。テーマは「香港ビジネス協会が若い会員の参加を促すための新たな取り組みと計画」でした。持ち時間が各国3分間という制限の中、日本香港協会は佐藤会長に引き続き、東京協会の筆者、関西協会の山本理事、宮城協会のタン青年部会長から各々若手起業家や青年部活動に関する報告を行いました。

続いて佐藤会長からの動議により、新潟日本香港協会からのアジアフォーラム2025の新潟への誘致に関して特別な発表時間が設けられ、新潟日本香港協会の吉田会長から、力強い立候補のスピーチが行われました。吉田会長のスピーチ中や本フォーラムのために準備された新潟のプロモーション用ビデオが流される間にも、会議の参加者からは「素晴らしい」、「今すぐ行きたい」、などの反応が沸き起こり、会場は大いに盛り上がりプレゼンテーションは大成功となりました。そのほか香港ビジネス協会東南アジア・南アジア地域代表の選出に関する討議が行われ、連盟の名誉会計責任者のディクソン・チュー氏を推す声が多く上がっていました。



HKBV主催のミーティング

今回のアジアフォーラムでは、ベトナム開催という事で地元企業から誘致や投資へのプロモーションが積極的に行われていたこと、協会としてESGへの取り組みを促していること、若手会員の獲得への注力などが印象に残りました。来年の新潟アジアフォーラムへの期待が膨らむ2024年のフォーラムとなりました。



NPO法人日本香港協会（東京） 高見 信和／山縣 俊夫

ドラゴンボートレース参戦記

香港駐在時代に交流のあった友人より連絡を頂き、ドラゴンボートレースが横浜で開催されることを知りました。短い期間でしたが、2015年から2年ほど香港に駐在し、当時私は香港日本人ドラゴンボート倶楽部・通称「日本龍」のチームに所属していました。レース当日を迎える前から、チームの本拠地である大潭篤での練習や、スタンレーでの公式戦などの写真を見ながら、当時の想い出を振り返っていました。

当日は改めて漕ぐフォームを確認しながら、早朝より会場へ。会場での準備体操やタオルを使っでの漕ぎ方の練習でテンション上げ上げでした。いざ、ボートに乗り込み、潮風、波うつ海面を目の当たりにしたとき、頭の中は香港一色でした。銅鑼の音でスタート。太鼓の音とともにチームを盛り上げるチーフの声かけに、オールにも一層力がは

いらいます。一期一会のチームでしたが、一丸となってレースに参加でき、楽しい時間を過ごすことができました。（高見）



「山縣さん、ドラゴンボート漕いでみませんか？」と、香港滞任時代に一緒の合唱団にいたKさんから連絡があったのは開催2週間前。ドラゴンボートについては漠然と知っている程度でしたが、せっかくのチャンスなので参加を決めました。基本的な「漕ぎ方」を知りたかったので、とりあえずYouTubeで検索したらたくさん動画が見つかり、様々なコツがあるのは理解できました。ですが、当日まで練習するすべもなく、ぶっつけ本番で臨むことに。



大会は全部で100チーム程度、老若男女様々の参加者でした。雨模様の天気予報でしたが、奇跡的に好天になり、とても楽しく漕ぐことができました。レースの間は、ひたすら太鼓のリズムと、前の漕ぎ手のパドルに合わせて頑張りました。われわれ飛龍艇は、ボート部経験者もいる鳳凰艇に比べて、私の様な初心者が多かったのですが、当面の目標の1分40秒の壁を破ることができて満足でした。また来年も参加したいです。皆さまありがとうございました。（山縣）

NPO法人日本香港協会（東京） 副会長・ビジネス交流委員長 野島 威

第5回ビジネス座談会

去る5月10日午後5時半より、麴町のネパール料理店「SPICE HUB」にて、第5回のビジネス座談会が開催されました。本座談会は、食事をとりながら、香港に関する情報交換・交流を行うという主旨で開催されるカジュアルな集まりなのですが、今回は、当協会の個人会員、賛助会員（法人会員）のみならず、会員の友人、知己、同僚など幅広い業界の方々にも参加いただきました。スパイスの効いた同店の料理は、参加者からも大変好評で、香港航空、順豊エクスプレス、JTBをはじめ、当協会とも関係が深い日本シンガポール協会の副会長のお二人や、当協会主催の広東語教室の生徒の方々にも参加をいただくなど、当初の目標通り40名を集め、おかげさまで盛会となりました。

事前にお互いにアポ取りをされた方も多く実りのある交流が出来たのではないかと思います。香港駐在・在住経験のある参加者も多く、当時の共通の話題で盛り上がったたり、現在の仕事や業務内容を互いに紹介して各々の強みを活かして新規ビジネスができなにかといったや

り取りも見られました。また、昨今急増中の香港からのインバウンドに関連する商売にどう対処して広げていくかについての意見交換や、近日中に開催予定の香港関係の絵画展の紹介が行われるなど、主催者にとりましても、多種多様な実りのある交流の場が設けられたものと安堵しております。セミナー形式とは違い、参加者同士が自由に話ができるインタラクティブなイベントの重要性を改めて実感した次第です。最後に、12月20日に開催予定の当協会のクリスマスパーティーのご案内をさせていただき、またの再会を期して座談会は幕を閉じました。参加して下さった皆様に心より感謝申し上げます。



和気藹々とした交流の様子

文化部セミナー「昼食懇親会」開催

関西日本香港協会は、文化イベントを通じて会員同志の交流を楽しんでお互いに親しくなるために文化部を設立しており、田島等副会長（上田安子服飾専門学校校長）に文化部長を兼務してもらっています。去る4月24日にレストラン「ローリーズ・ザ・プライムリブ大阪」で文化部セミナー「昼食懇親会」を開催し、27名が参加し、「美容と健康のバイオケミカル」をテーマにした食事前のセミナーと本社が米国ロサンゼルスで超有名なレストランの美味しいプライム・リブの料理を楽しみました。



文化部セミナー「昼食懇親会」

食事前の30分間のセミナーでは、大変好評の健康食品「壊れないビタミンC」の「プロビタミンC」を14年前に世に出し、更に進化した壊れずに小腸に届く「The C」を4年前に販売開始したアスacolバイオ研究所大阪の武藤徳男代表取締役社長（薬学博士、県立広島大学名誉教授）に講演をお願いしました。武藤社長は岡山大学のバイオケミカル研究所で壊れないビタミンCを研究開発された方です。難しいテーマを分かりやすく丁寧に解説していただきました。同所の業務執行責任者出原忠宏氏の働きもあり、協会の会員の間で壊れないビタミンC「The C」の愛好者がこれからも増えることでしょう。健康第一を実感したイベントになりました。

法人会員交流会開催

当協会では、法人会員の皆様と協会役員が親しく交流して香港への理解を深める目的で、法人会員の大阪キャッスルホテルの中華料理「錦城閣」で年2回法人会員交流会を開催しています。毎回、食事の前に、役員が交替で20～30分程度香港に対する思いを語ってもらっています。今回は、3月の総会で理事に就任された松田庄平氏が永年東京銀行と香港上海銀行で活躍されてきたご自分の経験談を話されました。ホテルとレストランの

社長で協会会員の清水民夫氏の特別なご好意により素晴らしい特別料理（フカヒレの姿煮、鮑とホタテの料理、北京ダック、牛ヒレ肉のピリ辛炒めなど）に皆さん大感激、幸せなひと時を過ごすことが出来ました。丸テーブルを囲んで親しい人達と美味しい中華料理を食べる機会は多くありません。関西日本香港協会の新規会員募集に役立つイベントとしてPRするつもりです。

香港ビジネスセミナー ～今とこれからの飛龍-香港の商機を考える～開催

7月24日にアットビジネスセンター大阪本町1607会議室で香港ビジネスセミナーを開催し、昨年より多い96名の参加者で盛会でした。中国の経済減速の厳しい現実、香港における中国政府の民主派香港人の断圧強化などの影響により香港に対するネガティブな意見が増えてきましたが、人材豊富で賢く、前向きに、素早く行動する香港人をよく知っている人達の間では、広東・香港・澳門大湾区（GBA）9都市の中国政府大経済圏構想の中核都市である香港の今後の発展を期待しています。更なる発展を期待して、飛龍-香港を考えるセミナーにしました。

今回のセミナーは香港貿易発展局との共同主催です。大阪商工会議所が共催してくれました。又、多くの団体、日本貿易振興機構（JETRO）大阪本部、中小企業基盤整備機構近畿本部、大阪産業局、大阪国際経済振興センター、日中経済貿易センター、日中経済協会関西本部に後援していただきました。

講演は、19歳で起業されて幅広く事業に成功され、最近では若手経営者の指導教育に注力され、著書「創業&経営の大学」を発刊された株式会社クワトロの竹菱康博会長に「飛龍の如く急成長する香港ビジネスの何故?」、香港貿易発展局の大阪事務所のリッキー・フォン所長に「日本のメディアでは報道されない香港の今と将来」と題した講演をお願いしました。



香港ビジネスセミナー



2024年春 中部日本香港協会が発足いたしました

1990年、全国各地協会でも3番目にうぶ声を上げた「中京日本香港協会」は、この春リメイクし「中部日本香港協会」として発足いたしました。5月29日に開催された設立総会には中部日本香港協会の主旨に賛同し、愛知、三重、静岡から23名が愛知県豊橋市に集い、設立準備委員会が上程した各議案が審議されました。



会長就任の挨拶をする越智会長

規約の承認、9名の理事の選出、そして会長にはJ&Cの越智成幸社長を選出し承認するなど、設立のための諸議案をすべて原案通りに承認し、中部日本香港協会が発足いたしました。その後、設立総会記念講演が開催され、HKTDC大阪事務所のリッキー・フォン所長より「解説・日本香港協会と香港の未来」と題し、香港の未来をイメージし日本香港協会を積極的に活用していくことが提唱されました。参加した会員は香港への思いを一層深いものにしたことでしょう。



リッキー・フォンHKTDC大阪事務所長の講演

新しく生まれ変わった中部日本香港協会は、日本香港協会全国連合会の地域組織として、中部エリアにおける香港に対する理解を深め、日本と香港の経済的及び文化的な交流に資することを目的といたします。全国諸先輩方のご指導ご鞭撻を賜りつつ、みなさまと足並みをそろえて、日本と香港の永続的な友好と相互発展に努めて参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。



設立総会の議事風景

中部日本香港協会 会員 大竹 正男

高橋治朗元会長を偲んで (2023年10月25日ご逝去)

高橋治朗元会長のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。

高橋元会長は2000年から約10年間にわたり、中京日本香港協会をご指導いただき、その間、香港での香港フォーラム、名古屋での春節パーティー、香港投資セミナー、名古屋港水族館などでの会員懇親会他鋭意推進いただき、まことに感謝に堪えません。



高橋治朗氏

とくに、高橋元会長は名港海運株式会社取締役会長と

して名古屋商工会議所常議員、その後会長在任中は、2005年愛知万博成功に尽力されたとともに、名古屋港利用促進使節団団長として永年、香港をはじめとする世界5大陸の主要港を訪問、名古屋港のPRに尽くされました。愛知、名古屋の国際化にも寄与され、本当に素晴らしい実績を残されました。

昨年2023年も8月下旬、ベルギー、イタリア、スペインを歴訪され、名古屋港利用促進使節団団長として業績を挙げられましたが、その後10月25日にご逝去されたとの報に接し、驚きを隠すことができませんでした。

日頃、持ち前のユーモアにより、会場をなごませていただいたこと、私ども香港協会役員、会員に対し温かく接していただいたことなど忘れることはできません。本当にありがとうございました。



香港大学生の日本・九州インターンシップ &文化プログラムの成果報告

当会は2021年度より、香港新華基金や福岡市の支援のもと、毎年香港嶺南大学、香港都会大学から約30名の香港の大学生を対象に1か月間のProject-Based Internshipを行っています。このプログラムは、学生が日本企業での実務経験を積むことを目的としており、学生たちにとって非常に貴重な機会となっています。今年は11社の受入企業（JR九州、JR九州ファーム、一蘭、ピエトロ、Global Business Support（福岡市）、Curio、C&E、トライアート、Mailmate、はかた芸処わ乃桂、Eat Japan）にて、28名の学生（うち、香港嶺南大学で留学中のモンゴル学生1名、カザフスタン学生1名を含む）が参加しました。

インターンシップの課題は、多岐にわたり、企業の香港・中華圏、インバウンド向け、社内のグローバルイノベーションなど、様々なテーマに取り組みました。具体的な課題は以下の通りです。

- 中国国内・香港に向けたライブコマースの実施可能性模索
- 福岡地域の英語教育サービスのマーケティングニーズを特定するワークショップの実施
- 日本の生鮮食品生産者が香港飲食関係者に発信する効果的なSNSマーケティングの立案
- スタートアップ向けの規制手続きや日本市場4Pの提供、宣伝資料の作成
- 外国籍人材の雇用促進策、香港観光客の誘致提案
- 九州の農業体験と八百屋店舗での実習、市場視察を通じた日本の流通網の理解・提案
- 香港在住者のサービス利用者拡大、インタビューを通じたJR九州の社会貢献調査、会社課題の包括的分析と具体的アイデア提案
- 中国語圏の外国人をターゲットにしたコンテンツマーケティングの実施
- 観光客・インバウンド向けのお土産販売のための売り方、企画
- BtoB向けソフトウェアの香港展開における市場分析とマーケティングの実践
- 外国人観光客向けの舞妓に関するPR動画・チラシ作成、SNS発信

プログラムの期間は1か月（2024年7月1日～31日）で、1週目の事前研修では、日本語、Working in Japan、Project Managementなどのインターンシップに役立つ授業や、日本人学生との交流（九州大学、九州産業大学）、茶道、浴衣の着付け、博多人形の絵付け、日本舞踊などの文化体験、ラーメン博物館の“一蘭の森”を視



最終報告会、JR九州チーム-学生、企業、大学



日本庭園での日本舞踊体験

察しました。また、研修は、本プログラムの名誉顧問である香港新華集団が2018年に九州大学に寄付した日本ジョナサンKSチョイ文化館にて行い、学生たちは孫文が九大訪問時に書いた「学道愛人」が掲げられた教室で研修を受け、日香交流の意義を再認識しました。

香港の大学生は、1週目の研修で決めたインターンシップの目標を当会の総会で会員企業や受入企業の前で発表しました。2週目からは各企業でのインターンシップに参加し、初日からオリエンテーションを受けて、課題の確認などを行い、本格的に業務に取り組みました。当協会の事務局も一部企業を訪問し、学生の様子を確認しました。来日前の6月から企業側とオンラインで顔合わせ、SNSグループを作成し、事前準備や課題についてのやり取りをしていたため、問題なく企業へのオンボーディングが行われました。

また、3週目にはインターンシップの途中で中間報告会を行い、課題に関する進捗を確認しました。当協会では毎週、生活全般や会社に関するアンケートを行い、細かく学生の生活を確認していました。4週目は大学の責任者と共に企業を訪問し、学生を激励し、企業担当者様に感謝の意を表しました。最終報告会は7月31日に開催され、このプログラムの名誉顧問である香港新華集団の国際理事ベティ・チャン氏や、香港都会大学の副学長リッキー・クオック教授がオンラインでご挨拶をいただき、香港嶺南大学の副局長コニー・ウォン氏もその場に参加しました。学生たちは、若い香港在住の大学生ならではの観点から企業の課題に取り組み、企業のグローバル展開に新たな視点を提供し、企業に貢献する実績や提案を発表しました。この紙面を借りて、英語、中国語、日本語を使い、学生たちにより深い学びの経験を提供くださった受入企業様に感謝の意を表します。受入企業様は企業の課題を考え、未熟なインターン生が素晴らしい成果を出せるように支えて導いてくださいました。若い香港の大学生を育てたいという温かい、企業の心がなければ、このプログラムは成立しませんでした。

最終報告会で当協会の石原会長からの言葉通り、このプログラムを通じて、より多くの香港の大学生や日本企業が互いのことを理解し、今後の交流が深まることを心より願っています。



山形県産米を使用した おにぎりの販売スタート

2024年4月8日より、7-ELEVEN香港において、山形県産米を使用したおにぎりの販売がスタートしました。この7-ELEVENにおけるおにぎりの販売スタートの立役者となったのが、山形日本香港協会の会員企業である株式会社丸屋本店（本社所在地：山形県東根市）です。丸屋本店の鈴木亮吉社長は、鈴木食品有限公司を2019年に香港で設立し、寿司に使用する酢飯をはじめとした米飯加工品を製造販売されていましたが、この度、7-ELEVEN香港において、山形県産米を使用したおにぎりの販売という新たな事業をスタートされました。

これまで7-ELEVEN香港では、中国産米を使用したおにぎりのみの販売を行っていましたが、香港におけるおにぎりの需要増加を受け、プレミアム価格帯の商品開発として、鈴木食品と7-ELEVEN香港との間で新商品開発を進めた結果、今回の山形県産米を使用したおにぎりの販売開始に繋がります。その新商品開発の中において、日本以外の国では一般的なことだそうですが、香港においてもReady to eatの商品は、物流・販売がチルド帯であり、ごはんの品質低下をいかにして低減させるかが一番の課題だったとのことです。何度も試作を重ねた結果、無事販売までこぎつけることができました。



7-ELEVEN香港店頭でのほり

7-ELEVEN香港でのおにぎりの販売開始から2週間は、香港の7-ELEVEN全店舗において、山形県産米のプロモーションが行われ、各店舗へのポスター掲載のほか、ラッピングバスやInstagram、YouTubeといったSNSにおいて大々的に宣伝が行われました。山形県産米のおにぎりは全6種類販売され、そのうち鈴木食品では2種類のおにぎりを現在も販売されています。原料となる山形県産米は、地元山形にある丸屋本店より他社製造のおにぎりの分を含め香港に輸出さ



香港へ運ばれる山形県産米

れています。

鈴木食品では、北海道醤油漬三文魚籽飯糰（いくらのしょうゆ漬け）、紅雪蟹膏飯糰（カニみそ）の2種を製造されていて、8月中旬以降には、ホタテを使用したおにぎりが新たに店頭に並ぶ予定だそうです。なお、7-ELEVEN香港では、北海道醤油漬三文魚籽飯糰（いくらのしょうゆ漬け）、日本産流心蛋黄壽喜焼牛肉飯糰（日本産卵黄を使用した牛すき焼）、醤油三文魚臍飯糰（醤油漬け鮭ハラス）が人気ベスト3として親しまれているとのことです。



鈴木食品の工場でしょうゆ漬けいくらをおにぎりに入れる様子

また、7月からはマカオの7-ELEVENでの販売も拡大されています。現在も引き続き新商品開発を続けていて、8月には新しい商品との入れ替えを行っていく予定とのことです。

7-ELEVEN香港では昨年もおにぎりの売上が昨対で30%という大きな伸びのあるカテゴリーということで販売に力を入れていて、今年の山形県産米のおにぎりで更なる売り上げ拡大に貢献できることを鈴木社長は期待されています。

最後になりますが、鈴木社長は、今後の抱負として「香港は人口700万人ほどの都市ですが、日本食への理解がかなり進んでいます。香港の方はお米も含め、日本の食材に対してプレミアム感をもっているのので、今後も高品質な日本の食材を継続してご提案していきたい」と述べています。



7-ELEVEN香港のおにぎりコーナー

本稿をお読みいただいた全国の会員の皆様におかれましても、香港に訪問された際には、7-ELEVEN香港にお立ち寄りいただき、山形県産米を使用したおにぎりを是非手に取っていただければ幸いです。

HOKKAIDO

北海道日本香港協会

株式会社ニトリパブリック グローバル開発部長 柴田 美香

北海道を代表する食品を海外バイヤーにPR

8月14～16日、香港で開催されたアジア最大級の食品展示会Food Expo PROに、北海道産のプロダクトを幅広く扱う商社として、ニトリパブリックが単独で初出展しました。取り扱いが1,000品目以上ある中で、香港市場に親和性が高いと想定した下記9社35品目の商品を展

示・紹介、そのうち約半数は香港初登場の商品でしたが、世界中から集結したバイヤーから、好評を博しました。



ブースの商談風景

◎フジタコーポレーション

事業内容…北海道内の様々な飲食チェーンブランドの運営、乳加工品・スイーツの製造・卸売。

出展商品名…●北海道いちごのカッサータ●北海道黒豆のカッサータ●フルーツとナッツのカッサータ●トワ・ヴェール ムース・フロマージュ●トワ・ヴェール●ブルーチーズケーキ

◎どさんこエナジー

事業内容…北海道内で長年にわたって愛されているスイーツ「ユカたん」、「レモンケーキ」の製造・販売。ブランド設立から約100年の歴史を持ち、2019年のG20観光大臣会合において、北海道代表銘菓として紹介される。

出展商品名…●北海道銘菓ユカたん●北海道銘菓ユカたん 宇治抹茶●北海道銘菓ユカたん 北海道メロン●北海道銘菓ユカたん マスカルポーネ

◎カドワーズ

事業内容…北海道、特に函館の農産物と生乳を使用したスイーツとレトルト野菜の製造・販売。

出展商品名…●はこだて雪んこ 6個入(プレーン/カボチャ/抹茶)●はこだて雪んこ 1個入(プレーン/カボチャ/抹茶/チーズ)●もうゆでちゃった(カボチャ/黄金のさつまいも/じゃがいも)

◎キョクイチ

事業内容…旭川で水産、青果、畜産というフルカテゴリーを取り扱う旭川地方卸売市場を運営。

出展商品名…●はたて貝柱(生食用)S●ほっけ開き●大ズワイガニ

◎佐藤水産

事業内容…オホーツク・太平洋・日本海と3つの海に囲まれた北海道の水産物・水産加工品の製造・販売。

出展商品名…●鮭醤油●鮭のとばくん●北海道スモークサーモン200g真空パック●北海道スモークサーモン80g

◎アレフ(小樽ビール)

事業内容…大麦・ホップ・水・酵母のみ使用した純粋なビールを生産・販売する北海道のブルワリー。

出展商品名…●小樽ビール スローブリュー●小樽ビール ノンアルコールビール

◎永田製飴

事業内容…大正10年(1921年)に創業した飴製造企業。北海道のハッカ生産地である北見に位置。

出展商品名…●ゴールデンバター飴●ハッカ飴

◎坂栄養食品

事業内容…明治44年(1911年)に創業したビスケットメーカー。ロングセラー商品「しおA字ビスケット」、「ラインサンド」を製造・販売。北海道民からは「坂ビスケット」という愛称で呼ばれている企業。

出展商品名…●北海道酪農ビスケット●北海道酪農しおA字フライビスケット●北海道酪農ゴマスティックビスケット

◎NEXTLEVEL(奥芝商店)

事業内容…道内スープカレー有名店「奥芝商店」の運営およびレトルトカレー商品の製造・販売。えびの頭でとっただしを使用するスープカレーが有名。

出展商品名…●海老だしスープカレー●元祖えびだしスープカレー



多くの来場者で賑わうブース

今回出展したFood Expo PROは、他の海外展示会に比べ、バイヤーの購入意欲、商談意欲が高く、質の高さを感じました。

会期中、約40件の商談を実施しましたが、約半数が香港のバイヤーとの商談、次いで中国本土のバイヤーが多く、その他韓国、タイ、ベトナムからのバイヤーにも数多くブースを訪れていただきました。全体的には、常温品よりも冷凍品、かつ希少性の高い商品への反応が良く、中でも、どさんこエナジー、佐藤水産、NEXTLEVELの商品に対する評価が高かったです。また、ビールは国・エリアを問わず幅広く人気を博しました。北海道ならではの冷凍スイーツは、今後商談を詰めて行けば、成約に至るのではないかと期待しています。



人気を博した冷凍スイーツ



アジアフォーラムに参加して

去る6月27日ベトナムにて「2024アジアフォーラム in ホーチミン」が開催され、宮城日本香港協会から3名の学生部・青年部メンバーが参加し、アジアのメンバーと懇親を深めることができました。

前日26日の夕方には、スカイテラスにてネットワーキングイベントが開催され、ベトナム香港ビジネス協会のメンバーによる歓迎ディナーが行われ、伝統的な舞踊パフォーマンスも披露されるなど、前夜祭として大いに盛り上がりました。



日本（宮城・左の2人）・マレーシア・ベトナムの各メンバー

そして迎えた当日、ベトナム香港ビジネス協会のマイケル・チュー会長の挨拶で幕を開け、HKTDCの東南アジア及び南アジア地域ディレクターのロナウド・ホー氏の基調講演、バンコクETO所長のパーソン・ラム氏の特別挨拶、午後はメインイベントの基調講演「2024/2025 HKBA 青年参画計画」が行われ、各香港ビジネス協会のメンバーが紹介され、意見交換等が行われました。日本協会からは関西、宮城、新潟の各代表が発表を行い、中でも新潟の吉田会長のPR動画を使った発表が大盛況で、来年度の「アジアフォーラム in 新潟」開催に向けて大きなアピールとなりました。

このフォーラムを通じて、日本とアジア各国との相互理解と連携を深め、より一層強固な友好関係を築き上げることが確認されるとともに、今後も積極的に活動に取り組む志を新たにす大変有意義な時間となりました。



アジアフォーラム ミーティング

仙台-香港13年ぶりにチャーター便運航

仙台と香港を結ぶチャーター便が、約13年ぶりに就航しました。7~8月に6往復の予定で、初日の7月17日は仙台一番町藤崎百貨店前のアーケード内特設ステージや仙台空港1階のイベントステージで「グレーターベイ航空仙台初就航記念セレモニー」が開催されました。



仙台空港に着陸したグレーターベイ航空の第一便（グレーターベイ航空提供）

香港経済貿易代表部のウィンサム・アウ日本首席代表が、宮城日本香港協会からも小野寺会長、大坪代表理事が来賓として参加、お祝いのテープカットを行い、その後、日中友好協会の会員による「仙台華花踊り祝いの舞」が披露され、就航に花を添えました。



来賓の方々によるテープカット



日中友好協会会員による仙台華花踊り（祝いの舞）



OKINAWA

沖縄日本香港協会

沖縄日本香港協会 事務局

香港フィルマート

アジア最大級の映像コンテンツ見本市「香港フィルマート」と「エンターテインメントパルス」には、50の国と地域から7,500名以上が来場し、盛況のうちに幕を閉じました。27の国と地域から約760社・団体が出展するなか、多彩な映画、テレビ、アニメーション作品とともに、映画制作の最先端技術が幅広く紹介されました。

今回、沖縄県からは沖縄観光コンベンションビューロー内にある沖縄フィルムオフィスが参加しました。香港フィルマートの様子や手ごたえについて沖縄フィルムオフィスの古波蔵修平氏にお聞きしました。

——沖縄フィルムオフィスについて教えてください。

沖縄県は、フィルムツーリズム推進事業を通じて映画製作者を誘致し、地域経済の活性化を図っています。この事業の一環として、国内外の商談会や映画祭に出展し、沖縄のロケ地としての魅力をPRしています。沖縄フィルムオフィスは2004年に設立され、今年で20周年を迎えます。

——現在の活動について教えてください。

主な活動は、国内ではジャパンフィルムコミッションが主催する商談会への参加、海外では香港フィルマートへの出展です。製作者に対しては、撮影に必要な情報提供や、地元との調整、安全対策などのサポートを行っています。しかし、予算の減少により、以前はカンヌ映画祭やベルリン映画祭などの大規模映画祭にも出展していましたが、現在は香港フィルマートのみの参加となっています。

沖縄には他地域にはない独特の景観が多く、映画やドラマの撮影に適した場所が豊富にあります。例えば、沖縄市の一番街や北谷のアメリカンヴィレッジ等、アメリカナイズされた通りなどが挙げられます。一方、撮影助



香港フィルマートにおけるプレゼンテーション

成金の廃止によりインセンティブが弱く、他地域と比べて選ばれにくい状況にあります。その点からの香港のみならずアジアの映像関係者が多く参加する香港フィルマートへの参加は、海外に沖縄をアピールする絶好の機会となったと考えています。

——香港フィルマートでの様子はいかがでしたか。

香港フィルマートでは、アジア全体からの参加者に対して沖縄の魅力をPRし、広範な地域からの製作者にアプローチしています。沖縄フィルムオフィスは、今後も国内外の商談会や映画祭に出展し、沖縄のロケ地としての魅力を発信していく予定です。また、地元のフィルムコミッションと連携し、撮影支援を強化することで、さらに多くの製作者を誘致することを目指しています。問い合わせは日本が圧倒的に多く、次いで韓国、香港となっています。韓国からはミュージックビデオの問い合わせが多く、ドラマの問い合わせも少しあります。シンガポールからのドキュメンタリー制作に関する問い合わせもあります。

——今後の活動について教えてください。

課題としては、問い合わせ後、沖縄における実際の撮影状況の把握が難しいことが挙げられます。沖縄にはロケーションコーディネーター協会があり、基本的にはこの協会を通じてコーディネーターを紹介していますので、沖縄フィルムオフィスで把握できていない案件も多くあります。今後はロケーションコーディネーターとの連携も重要になると考えています。

沖縄フィルムツーリズム推進事業は、単に映画やコマースやプロモーションビデオなどの映像関係者の誘致による地域経済の活性化のみならず、沖縄の美しい自然や独自の文化を広く伝えることから、沖縄のイメージアップにも繋がり、観光客の誘致に寄与する重要な取り組みであり、今後もその活動が期待されています。



香港フィルマート



広島日本香港協会令和6年度通常総会

令和6年7月4日、広島日本香港協会令和6年度通常総会をオリエンタルホテル広島にて開催いたしました。本年度の通常総会は、法人44会員、個人8会員、合計52会員のうち、12会員23名参加のもと行われました。

冒頭、当協会の池田晃治会長が、「コロナの影響もあり、香港への訪問が途絶えていたが、昨年度、5年ぶりに香港へ代表団を派遣し、エネルギーな香港に直接触れるなど、大きな刺激を受けたと報告を受けたところである」との発言をされており、本年度も12月の香港フォーラムへの参加に向けて、準備を進めてまいります。続いて、令和5年度事業報告及び令和5年度決算報告、令和6年度事業計画案及び令和6年度予算案について審議し、満場一致で承認されました。



総会の様子

その後、来賓としてお越しいただいた、香港貿易発展局のリック・フォン大阪事務所長によるご講演が行われました。ご講演では、「香港を正しく理解するための最新情報」というテーマでお話いただきました。

講演内容として、「香港の今 GDP・ビジネス環境評価・外資企業・スタートアップ」、「香港の人材誘致政策」、「香港のライフスタイルトレンド Young Wealthy」、「円安はシェア拡大の商機」、「国際物流ハブとしての強み」などについて、現地の写真を多数紹介いただきながら、わかりやすく解説いただきました。「香港のライフスタイルトレンド Young Wealthy」として、香港には純資産45億円以上の超富裕層が12,615人（世界1位、2023年）、純資産7億5千万円以上の富裕層は6万人（世界4位、2021年）いるというデータがあり、その中でもトレンドを牽引しているのが、Young Wealthyと言われる人たちが、とのお話を聞き、改めて香港の水準の高さを感じました。同時に、現地で香港のエネルギーな雰囲気を楽しむことへの興味がより一層湧きました。また、「国際物流ハブとしての強み」として、2023年の貨物取扱量は香港国際空港が430万トンと世界首位となってい



ご講演

る一方で、日本の空港においては成田空港187万トン、羽田空港56万トン、関西空港72万トンと、物流においても香港国際空港は圧倒的な存在感を誇っております。

交流会

コロナ禍では中止を余儀なくされていた交流会ですが、今年度も、昨年度に続き、無事実施することができました。

交流会では、田邊昌彦副会長と松藤研介理事から挨拶があり、来賓の香港貿易発展局、会員の皆様との交流を深めました。法人会員・個人会員問わず多様な業種の方々にご参加いただき、香港に在住経験のある会員や、香港に精通している会員の方との交流を深めることで、香港をより深く知ることができました。会員の皆様の香港への関心の高さと、香港とのビジネス交流や人的交流等、更なる関係強化を図りたいとの思いに触れることができ、非常に有意義な会となったところです。お忙しい中、ご参加いただきました会員の皆様、香港貿易発展局の皆様はこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

引き続き、当協会では、会員の皆様と香港との相互理解と友好を促進し、経済の交流を図るための活動を展開していきます。



交流会の様子



NIIGATA

新潟日本香港協会

新潟日本香港協会 事務局 長部 未奈

通常総会・講演会・懇親会の開催

去る5月29日ホテルオークラ新潟 4階「白鳥の間」にて本年度の通常総会・講演会・懇親会を開催し、総勢30名近くの方々にご出席いただきました。総会後の講演会では、香港において輸出ビジネスを展開する味珍味(香港)有限公司のデニス・ウー常務董事をお招きし、「香港における日本食ビジネスと新潟の可能性」と題してお話いただきました。デニス氏は昨年春の春節セミナーでご講演くださったフランキー・ウー氏のご子息で、現地にて会社経営を継承されました。



デニス氏による講演会

冒頭では香港での日本産商品の需要についてご説明いただき、特にここ数年は日本産の卵の人気の沸騰しており、日本から何本ものコンテナで卵を輸送しているという情報に参加者も驚きを隠せませんでした。「他国産があっても同価格であれば日本産の商品を選ぶ」という香港人が多いことに日本の誇らしさも感じました。一方で、青果物梱包には輸出規格の専用段ボールがなければ商品が傷んでしまうという輸出業者が直面する困難・試練のお話には皆興味深く聞き入っていた様子が印象的です。海外市場を見据えたものづくりにはトライアンドエラーと諦めない気持ちが成功の鍵であることがデニス氏の実体験から伺い知ることができました。香港では現時点で日本を含む海外商品を取り扱っていない地元スーパーマーケットも多いようで、今後一つでも多くの新潟県産品進出を香港で目にする日が来るよう、事務局としても全力でサポートしてまいります所存です。将来輸出を検討す

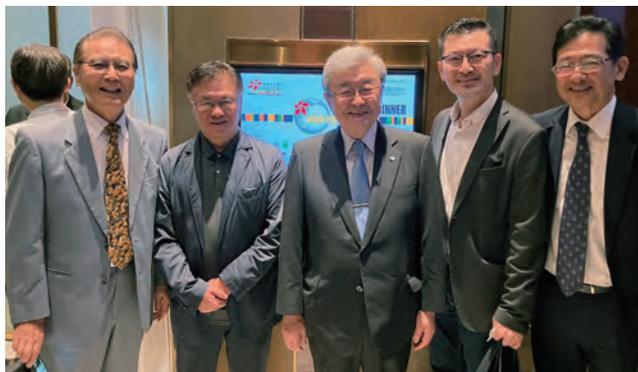


左からウー常務董事、崔総領事、吉田会長、アウ首席代表、ヤウ首席代表

る企業様にとって、有益な時間となっていれば大変喜ばしく思います。

その後の懇親会は、吉田会長挨拶から始まりました。今回は来賓として、香港経済貿易代表部のアウ首席代表、そして中国駐新潟総領事館の崔総領事にお越しいただき、中国語、英語、日本語が行き交う非常に国際的な雰囲気の会となりました。歓談中は、講演会の香港のお話や、新潟県産品の話題、久しぶりのお顔合わせで近況報告をされる等、皆賑やかに楽しまれ、最後は五月女副会長より新潟と香港とのさらなる結びつきを願った一本締めで締めくくりました。

アジアフォーラム in ベトナム2024への参加



ウェルカムディナーにて、左から佐藤会長、シンガポール・デニス氏、新潟・吉田会長、マレーシア・ディクソン氏、東京・守永理事

去る6月27日、吉田会長と大島事務局長にてベトナム・ホーチミン開催のアジアフォーラム2024に参加してまいりました。アジア諸国から参加者がいる中でも日本からは東京、関西、宮城、そして新潟から9名という多くの人数で出席いたしました。今回は、2025年アジアフォーラム開催地として新潟誘致を検討していることから、インターナショナルミーティングの中で「食で繋がる香港と新潟」を軸に吉田会長から新潟の魅力についてプレゼンをさせていただきました。お米、お酒、海鮮、そして豊かな自然に囲まれている新潟は秘めたる魅力がたくさんあります。ディクソン氏、デニス氏のお力添えに心より感謝するとともに、来年皆様に新潟を知ってもらい機会ができることを願っております。



インターナショナルミーティング終了後の記念撮影



香港食品セミナー開催

全国的に観光需要が大きく回復しておりますが、ここ高知においても好調を維持しており、前号でも触れましたが「極上の田舎、高知。」をコンセプトにした「どっぷり高知旅キャンペーン」では、高知県下様々なプランで県外、海外のお客様をおもてなししています。検索サイトにて「どっぷり高知旅」と検索いただければ、見るだけでも充実のHPが旬の情報を掲載しておりますので是非ご覧ください。

また一方で、本年4月17日に発災した令和6年豊後水道地震においては高知県宿毛市を中心に最大震度6弱という大変大きな地震が発生し、能登半島地震以降も、度重なる地震のほか、線状降水帯の被害など緊迫した状態が続いています。各地においても大きな被害が及ばないよう願うばかりです。

さて、先般7月14日には、高知日本香港協会2024年度通常総会が開催され、本年度は、総会に先立ち当協会主催の「香港食品セミナー」を企画しました。



リッキー・フォン大阪事務所長ご講演

香港貿易発展局リッキー・フォン大阪事務所長からは「直接見てきた最新の香港情報」、味珍味（香港）有限公司デニス・ウー常務董事からは「香港における日本食ビジネスの将来と高知の可能性」と題し講演をいただきました。リッキー・フォン氏の講演では、中国返還以降、当協会でも様々な心配や憶測がある中、85%以上の企業がビジネスの環境が改善した、変わらないと回答したことや、依然として日本食の高いクオリティが人気であること、世界1位の国際物流拠点であることなど、既存メディアでは知ることのない情報をご提供いただきました。総会終了後にはリッキー・フォン氏との意見交換会を開



味珍味有限公司デニス・ウー氏ご講演

催。現在の香港情勢について会員からの様々な質問に私見を織り交ぜながら応答をいただき、大変有意義な時間となりました。



香港貿易発展局フォン所長との意見交換会

また、デニス・ウー氏からは日本食のトレンドや、今後の展望と更なる可能性をご教授いただき、特に高知県産品のニーズの高まりについては参加者も希望がもてる内容で、文字通り可能性を感じた次第です。

今回の香港食品セミナーには、JETRO米山所長、高知県より輸出振興室長、貿易協会理事がご参加いただいた経緯もあり、セミナー後の香港輸出に向けた相談会では、6社の相談枠を超える応募があり、デニス・ウー氏には全てにご対応いただきました。相談会参加者は自社の加工食品などを持ち込んで積極的に相談されており、皆さん、とても良かったと香港進出に向けてチャンスを感じられたようでした。初めての試みでしたが非常に満足度の高い企画となりました。協会としての意義も高く、今後も定期的開催したいと考えております。今回の香港食品セミナーに関しましては、香港貿易発展局大阪事務所の田中洋三次長に大変ご尽力をいただきました。この場をお借りいたしまして改めて感謝申し上げます。



2024年度総会 森本会長挨拶

コロナ以前には会員が66名まで増加した当協会ですが、コロナ禍を経て37名まで減少してしまいました。大変厳しい協会運営が続いてきましたが、今回の香港食品セミナー終了後には数社の入会希望もございましたので、今後も積極的に事業を行い、海外進出に向けた相談会、また研修旅行などを通じ増加に転じたいと考えております。

秋を前にまだまだ厳しい暑さが続いており、台風や線状降水帯などの風水害も心配されます。各協会の皆さま方におかれましてはくれぐれもご自愛いただきますよう、心よりお祈り申し上げます。



日本のあの歌が広東語に？ カラオケ・異文化交流・話題の掴みにも！

広東語カバーソング事典

【日曲粵詞翻唱大典】

収録曲数
3,000曲
以上！

横澤 信衛【編著】

「広東語カバーソング事典」【日曲粵詞翻唱大典】

横澤 信衛(日本香港協会会員) 編著 定価：2,728円(税込)【B6判】 248ページ

日本で知られている歌(J-Pop、演歌、歌謡曲、洋楽カバーなどジャンル不問)を、広東語でカバーした楽曲の事典。日本の原曲のアーティスト名から検索できます。

デザインエッグ株式会社 ISBN: 978-4815042172

Amazonまたは楽天でお求めになれます。(送料無料)



amazon



rakuten

飛 龍

URL <http://www.jhks.gr.jp>

日本香港協会全国連合会 電話 (03) 5210-5901
〒102-0083 千代田区麹町3-4-5 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

NPO法人日本香港協会(東京) 電話 (03) 5210-5870
〒102-0083 千代田区麹町3-4-5 トラスティ麹町ビル6階
香港貿易發展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易發展局内

中部日本香港協会 電話 (0533) 77-2468
〒441-0304 豊川市御津町佐脇浜3号地1-27 株式会社平松食品内

九州日本香港協会 電話 (092) 260-3748
〒810-8629 福岡市博多区中洲2丁目6-10 株式会社ふくや内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 226-7025
〒980-0021 仙台市青葉区中央1丁目6-18 山一仙台中央ビル8階
株式会社Sola.com内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001
〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494-3 2階 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 855-9570
〒780-0056 高知市北本町4-4-7 パールマンション1301
株式会社オトル内



吉祥寺中道通りに面した入口



地域別・テーマ別に本を揃えた書架



香港の本コーナー

東京都武蔵野市吉祥寺の、旅先への興味と敬意をテーマとする旅の本屋、街々書林です。各地の歴史、民俗、地理・地図、ことば、自然、交通、食、美術・写真、ガイドブックなど幅広い人文書を集めています。時刻表やNHK語学テキストも揃え、旅に出る前や旅の後に読む素敵な本に出会えます。

★飛龍 107号をご持参のうえ本を購入なさるとオリジナルポストカードプレゼント★

街々書林

Machi-machi Shorin Books & Gallery

営業時間 12:34~18:00 定休日 月・火曜日

180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町 3-3-9

(中央線・井の頭線吉祥寺駅北口から西へまっすぐ8分)



街々書林 WEB サイト